

バベル翻訳大学院と翻訳教育で類似の学位付与プログラムをもつ海外の大学との比較

目次

1. オンライン通信の翻訳教育プログラムを持つ大学機関との比較
2. アメリカ合衆国内のオンキャンパスの大学機関との比較
3. ミドルベリー国際大学院モンレー校との比較
4. ケント・ステート・ユニバーシティとの比較
5. ニューヨーク・ユニバーシティSCPSとの比較

要約

1. 我々はアメリカ、カナダ、イギリスのオンライン通信教育で翻訳教育を行っている大学 13 校との比較を行った。多くの大学が対象言語を多くし、対象文書の分野別 (Subject Specialty) 教育を行っていないのに対し、バベル翻訳大学院は対象言語を日本語と英語に絞り、細かくセグメントされた対象文書別の翻訳教育訓練を大量に行っている点に特徴がある。提供するコース、履修年限、ファカルティの数はバベル翻訳大学院が他を圧倒している。
2. 我々はアメリカの通学制、オンキャンパス大学で翻訳教育を行っている大学 43 校との比較を行った。これらの大学の翻訳教育は提供する学位、履修期間、科目において多様性があり比較しにくいだが、バベル翻訳大学院の提供する教育訓練は専門化されているが内容はトップクラスであると確信した。
3. 我々はアメリカの最も評判が高いミドルベリー国際大学院モンレー校との比較を行った。ミドルベリー国際大学院モンレー校は通訳、翻訳を教え、9 か国言語を広く訓練するのに対し、バベル翻訳大学院は日英言語に絞り、対象文書別の専門化を行うなどの違いがある。
4. 我々はアメリカで翻訳の学位を学士号、修士号、博士号にわたって出すユニークな大学であるケント・ステート大学との比較を行った。修士号のみを出すバベル翻訳大学院と違いはあるが修士号に限れば、バベルの提供する科目が分野別で圧倒的に多い。

5. 我々は、オンラインでの翻訳教育を行っているニューヨーク大学 SPS(School of Professional Studies)との比較を行った。

1. オンライン通信の翻訳教育プログラムをもつ大学機関との比較

(1)アメリカ、カナダ、イギリスの大学機関

オンライン通信で翻訳教育を提供している大学機関は以下の通りである。

(a) アメリカ合衆国で、オンラインによる翻訳教育を行う大学教育機関

New York University, School of Continuing and Professional Studies

University of Illinois at Urbana-Champaign, Center for Translation Studies

Adelphi University College Online

(注)Phoenix University, Kaplan University, Walden University などの大手総合通信教育大学は宣伝上では翻訳も学べるといっているが、科目は極めて少なく、翻訳学位も与えるわけではないので、リストからは削った。

(b) カナダでオンラインによる翻訳教育を行う大学教育機関

University of Toronto, School of Continuing Studies

University of British Columbia, Center for Teaching, Learning and Technology College

University de Saint Boniface

(c) イギリスでオンラインによる翻訳教育を行う大学教育機関

City University London, Institute of Linguistics Diploma in Translation

University of Birmingham

University of West of England

Cardiff University Center for Liberty Learning

Susan James, Institute of Linguists Diploma in Translation

(2) アメリカ、カナダ、イギリスにおいて、オンラインで翻訳の通信教育を行っている教育機関を調べたが、特徴は次の通りである。

(a) アメリカの3校のうち、University of Illinois にアラビア語、フランス語、ドイツ語、スペイン語での翻訳・通訳の MA、New York University に翻訳の Certificate および MS を授与するオンラインプログラムがある。Adelphi U は期間が短く(9ヶ月)、certificate プログラムを提供する。カナダの3校のうち、2校(U of Toronto および UBC)は Certificate のみ。U de Sant Boniface は4年制で、Bachelor of Translation を与えるが、英仏のみ。イギリスの5校のうち U of Birmingham および U of West of England では MA in Translation and Language Technology のプログラムがあり、Cardiff および Susan James では Diploma in Translation を与えている。

(b) アメリカ、カナダ、イギリスの各大学機関のオンライン翻訳教育の運営母体は、いずれも大学の中の Institute あるいは Professional School のような母体が運営し、ディプロマやサーティフィケートもそれらの機関を通して授与している。機関の種類は、School of Continuing and Professional Studies (NYU)、Center for Translation Studies (U of Illinois)、Center for International and Translation (U of Hawaii) のようなプロフェッショナルスクールがある。しかし、カナダやイギリスでは、School of Continuing Studies (U of Toronto) や Center for Teaching, Learning and Technology (U of British Columbia)、Center for Liberty Learning (Cardiff U) といった初学者向けのディプロマプログラムがある。また、Institute of Linguists Diploma in Translation (City U, Susan James) のような応用言語を主体とした言語研究センター内のプログラムがあるが、翻訳における専門的教育には至っていない。

(3) 教科課程は数ヶ国語からなる言語別のプログラムを提供する 경우가多く、文芸翻訳、法律翻訳、医学翻訳のような対象文書別となっていない。ヨーロッパ系の言語が多い。入門、上級とコースを分けてはいるが、対象文書別にはなっていない。学生は専門性のない文書の翻訳を訓練するのみであるから、専門分野に特化した翻訳能力を獲得することができないと思われる。下記は提供しているオンライン教育課程の翻訳教育の言語である。

NYU: 仏、西、中 3 言語

U of Illinois: 仏のみ 1 言語

Adelphi U: 西、仏、伊 3 言語

U of Toronto: 中、韓、日 3 言語

U of British Columbia: 中、韓 2 言語

College U de Sant Boniface: 仏のみ 1 言語

City U London: 仏、独、伊、西、葡、蘭、アラビア、ポーランド、露、土、チェコスロバキア
11 言語

U of Birmingham, U of West of England: 西、仏、独 3 言語

Cardiff U: 中、アラビア、ポーランド、ギリシア、マレー 5 言語

Susan James: 仏、独、ギリシア、伊、西、蘭、スウェーデン、露 8 言語

(注) いずれも英語が対象言語である。

(4) 科目数は平均して 3 単位 10 科目計 30 単位が提供されている。(36 単位未満は学位は提供されずサーティフィケートのみが提供される) 科目の殆どは Chinese-English Translation や French-English Translation というような科目名の実習訓練科目である。

翻訳の理論についての科目は Principle of Translation、Translation Theory というような科目名の科目が提供されているが 1 科目か 2 科目のみで多くない。

(5) バベル翻訳大学院との比較

バベル翻訳大学院は以上の海外の諸大学機関の提供するオンライン翻訳教育プログラムに比して次のような特徴がある。

(a) 言語は英日英のみに特化しており多数の言語を扱っていない。学生は日本語と英語に流暢な学生のみを対象としており、より深い翻訳教育を実施している。

(b) 学生に、文芸、金融、特許・医学、法律の 4 つの翻訳分野から一つの専攻を選ばせ、それを更に細分化した科目を与えている。文芸翻訳については、ロマンス、ミステリー、ノンフィクション、法律翻訳については契約書、訴訟文書、議事録などのように科目を豊富に提供し

ている。科目数は全体で 45 コース、プロフェッサーは 32 名在籍している。

(c) 翻訳の理論科目、基本科目は、翻訳英文法、翻訳論研究、世界翻訳史、英語史、異文化コミュニケーションなどを提供しているが、これは比較対象の諸通信教育大学機関に比して十分に多い。

(d) バベル PST の学生の卒業要件は 36 単位(2 単位科目で 18 科目)であるが、これは比較する諸大学機関より多い。卒業までに最短 2 年と設計しているが多くの学生はそれ以上の期間をかけて、充分の学力を付け卒業している。

(e) したがって、バベル翻訳大学院の卒業生は単なる Certificate や Diploma of Institute でなく、正規の Degree である Master of Science in Translation を与えられる。

2. アメリカ合衆国内で翻訳教育プログラムを持つオンキャンパスの大学機関との比較

(1) アメリカ合衆国内で翻訳通訳教育を「オンキャンパス」で提供している大学機関は次に述べる 45 校である。

Arizona State University, Language and Literature

Barnard College, Department of French

Brigham Young University, the Department of Spanish and Portuguese

Brown University, Department of Comparative Literature

Florida International University, Department of Modern Language

Georgia State University, Translation Program

Kent State University, Institution for Applied Linguistics

La Salle University, Bilingual /Bicultural Graduate Studies

Marygrove College, Modern Language Translation

Marymount Manhattan College, Humanities Diversion

Montclair State University, College of Humanities and Sciences

Middlebury Institute of International Studies at Monterey

New York University, School of Continuing and Professional Studies
Oakland University, Department of Modern Language and Literatures
Rutgers, The State University of New Jersey, Department of Spanish and Portuguese
San Diego State University Department of Spanish and Portuguese
State University of New York, University at Albany Slavic and Eurasian Studies
State University of New York, Binghamton University Center of Research in Translation
University of Arizona National, Center for Interpretation
University of Arkansas, Program in Creative Writing and Translation
University of California Riverside, Comparative Literature and Foreign Language
University of Hawaii at Manoa, Center for Interpretation and Translation Studies
University of Iowa, Department of Cinema and Comparative Literature
University of Massachusetts Translation Center
University of Nebraska at Kearney, Department of Modern Language
University of North Carolina at Charlotte, Department of Language and Culture Studies
University of Wisconsin Milwaukee, Department of French, Italian, and Comparative
Department

Adelphi University, University College
Bellevue College Translation and Interpretation Program
Bingham University, Translation Research institution Program
Boston University, Center for Professional Education
California State University Los Angeles, Division of Extended Education
Gallaudet University Department of Interpretation
Hunter College of the City University of New York, Continuing Education
International Institute of Buffalo, New York, Interpreting and Translation Department
Miami Dade College, Inter-American campus, Translation and Interpretation Studies
Northern Illinois University, Department of Foreign Languages and Literatures
Southern Nazarene University
Tennessee Foreign Language Institute
University of California, San Diego Extension Interpretation
University of Chicago, Graham School of General Studies
University of Denver, School of Professional and continuing Studies
Western Michigan University, Department of Foreign Languages
University of Texas Dallas, Center for Translation Studies
American University, Graduate Certificate in Translation

(注)上述の US 大学機関は、ATA (American Translators Association) の Institutional Members

Offering Translation/Interpretation)、ALTA Language Service の US Top Ten Translation Schools、および Word2Word の Degree Program in Translation を参考に列挙したものである。

(2) 提供する翻訳教育の多様性

上述の各校が提供する翻訳教育は極めて多様である。提供する学位は Certificate in Translation, Bachelor (BA) in Translation, Master (MA 又は MS) in Translation そして PhD に到るまで多様である。PhD を与える大学機関は Kent State のみである。半数が MA 又は MS、半数は BA または Certificate である。MA は MA in Translation だけでなく MA in Foreign Language, MA in Communication など Translation 以外の名がついているのも多い。履修期間も多様であり、数週間から十数ヶ月のオンキャンパス授業もあれば、MA または MS で 1 年又は 2 年の大学もある。

修学する言語も多様であり、15 以上の言語を提供する大学機関 (Arizona State U, U of California Riverside) から単に 1 言語のみ (仏あるいは西) を提供する機関などさまざまである。多くの大学機関はヨーロッパ系言語を提供しており、アジア系言語 (日本語、中国語、韓国語) を提供する大学機関は少ない。(Middlebury Institute of International Studies at Monterey と University of Hawaii at Manoa が中、日、韓を提供している。)

大半の大学機関は外国語学部の延長線上で Translation の教育を提供しており、教科の内容は外国語の授業である。Middlebury Institute of International Studies at Monterey のみが翻訳専門教育を提供している。アカデミックな学問として提供している大学機関は、Kent State University Institute for Applied Linguistics を除いて少なく、殆んど大学機関は Principle of Translation というような科目を 1 科目程度提供しているだけである。提供する科目数が 10 科目から 15 科目程度であるので、翻訳学のようなアカデミックな科目を多くする余裕がないようである。

Faculty Member の数は数名から数十名と多様であるが、NYU を除き多くても 30 名位である。平均して 10 の言語が扱われているが、その教授数で多言語に対応しているから 1 言語当たりの教授は少ない、したがって 1 人から 3 人の教授が 1 外国語の初級、中級、上級を教えるように

なっており、専門別(法律、医学、特許など)に教えるようになっていない。

加えて、多くの大学機関がプログラムを翻訳通訳プログラムとしており **Interpretation** を一緒に教えている。**Translation** のみに専門化していない。

(3) バベル翻訳大学院との比較

バベル翻訳大学院は **Interpretation** を除いており **Translation** のみの専門の大学院である。全てのプログラムは、1 科目(中日契約書翻訳)を除いて、英日・日英のみで、教えられており、アメリカの大学機関のように多言語となっていない。プログラムは「文芸」、「金融 IR」、「特許・技術・医学」、「法律」の4つの **Major** に別れ、それぞれが更に専門化した科目を提供する。

たとえば文芸翻訳には、ミステリー、ロマンス、ノンフィクションなどの科目があり、法律翻訳には、契約書、訴訟文書、会社議事録等の科目がある。言語においても対象文書においても、細分化された、実務に即した科目である。バベル翻訳大学院のプログラムは、このようにアメリカの大学機関の翻訳教育に比べて極めて実務に対応して細分化されたものとなっている。アメリカの大学機関が一般的な翻訳者を養成するように設計されているのに対して、バベル翻訳大学院の養成する翻訳者はプロフェッショナル・トランスレーターであり、非常に **Specialize** された翻訳能力を持つよう設計されている。

バベル翻訳大学院のプログラムを一般的なアメリカの翻訳教育機関の平均像と比較することは困難であるが、特徴を知るためにアメリカの翻訳教育機関のトップスクールである **Middlebury Institute of International Studies at Monterey** 及び **Kent State University** ならびに **New York University SCPS** の3校と比較することにする。

3. ミドルベリー国際大学院モントレイ校とバベル翻訳大学院の比較

Middlebury Institute of International Studies at Monterey(ミドルベリー国際大学院モントレイ校)は国際経営、語学教育、環境など12の **Area of Study** を運営しているが、その中の **Graduate**

School of Translation, Interpretation, and Language Education はもともと学生が多く、歴史も古い。アメリカの翻訳機関の中でも最も評判が高く Top Ten Translation School の筆頭である。そこでバベル翻訳大学院はこれと比較することにする。

(1) 立地、歴史、評判

ミドルベリー国際大学院モンレー校はカリフォルニア州中部の海岸のモンレーに立地する。モンレーには、合衆国国防省の外国語学校が第二次世界大戦前から立地しており、またシリコンバレーに近いために通訳翻訳需要が多く、大手の翻訳サービス会社があることから翻訳者の人材リソースも豊富で翻訳を志望するたくさんの学生が集って来ている。ミドルベリー国際大学院モンレー校は 1955 年の創立であり 63 年の歴史を有する。グローバリゼーションの進展に伴い、国際的に通訳・翻訳の需要が増えているが、ミドルベリー国際大学院モンレー校は翻訳通訳の分野で最も評判の高い学校である。

バベル翻訳大学院は 2000 年にホノルルで開校し、大学院としての歴史は 18 年である。しかし、翻訳教育自体は 1974 年より東京で行っていたので、これを通算すれば 40 年以上の歴史となる。

(2) 言語、就学期間、学位、専攻

(a) 言語

ミドルベリー国際大学院モンレー校で養成する翻訳・通訳者の言語は、アラビア、仏、独、日、韓、中、露、西、ポルトガルの 9 言語(対応言語は英語)である。

バベル翻訳大学院のカリキュラムは、の 45 科目はすべて、日本語・英語間の翻訳に関連した科目である。

(b) 就学期間

ミドルベリー国際大学院モンレー校は就学期間 2 年、バベル翻訳大学院の最短在籍期

間は2年である。

(c) 学位

ミドルベリー国際大学院モンレー校とバベル翻訳大学院が与えるのは修士号である。両者とも大学(Undergraduate)をもっていないし、両者とも博士課程をもっていない。

ミドルベリー国際大学院モンレー校はその翻訳通訳課程を終了した学生に次の4つの学位を与える。

MA in Translation

MA in Translation and Interpretation

MA in Translation and Localization Management

MA in Conference Interpretation

バベル翻訳大学院が与えるのはMS(Master of Science) in Translation である。

(d) 専攻

ミドルベリー国際大学院モンレー校は翻訳・通訳のプログラムとして次の4つの専攻がある。

Translation(翻訳)

Translation and Interpretation(翻訳通訳)

Translation and Localization Management(翻訳・ローカライゼーションマネジメント)

Conference Interpretation(会議通訳)

バベル翻訳大学院の専攻は次の4つの専攻にわかれる。

Literary Arts and Film Translation(文芸翻訳)

Finance and IR Translation(金融IR翻訳)

Patent, Technical and Medical Translation(特許・技術・医学翻訳)

International Paralegal and Legal Translation(インターナショナルパラリーガル・法律翻訳)

(3)教授陣及び学生

(a) 教授陣(Faculty)

ミドルベリー国際大学院モンレー校のファカルティは30名強(9言語)であり、そのうちの3名が日英または英日コースを担当している。講師その他ティーチングスタッフの数は明らかでない。

バベル翻訳大学院のプロフェッサーの数は32名である。このうち1名が米国人、残り全員が日本人である。尚他に5名のインストラクターが在籍している。

(b) 学生数及び出身国

ミドルベリー国際大学院モンレー校の総学生数は764人と公表されている。これは翻訳通訳以外の国際関係などのスクールの数を含むから、**Graduate School of Translation, Interpretation, and Language Education(GSTILE)**の学生数は400名くらいと推定される。その中の日本語を専攻言語とする学生数は不明である。バベル翻訳大学院の登録学生数は2017年時点で170名である。

ミドルベリー国際大学院モンレー校の学生の出身国は61カ国、米国内の学生と留学生との割合は不明であるが、出身国は多様と言える。バベル翻訳大学院は、米国人1名、ロシア人1名、中国人1名、韓国人2名を除いて、全員が日本人である。ただし、これらの学生の居住国は日本国を含み34カ国に及んでいる。

(3) カリキュラム及び科目

ミドルベリー国際大学院モンレー校は詳細のカリキュラム、科目シラバスをウェブ上に公開していないが、年間スケジュール表、教授陣のコメント、学校説明を読む限りでは、次の通りである。

学生に教えられる科目は、専攻言語の翻訳・通訳を初級(Introduction)、中級(Intermediate)、

上級(Advanced)と進む科目を学んで行き、その中で **Business and Economic, Court and Legal, Health and Medical, Literary, Scientific** のそれぞれの **Translation** のスキルと経験も身につける。教材は専攻言語の教授が準備する。この形で提供される科目は 20 科目くらいである。プロフェッショナルな実務訓練が多く、殆どが訓練である。翻訳学のようなアカデミックな科目は置いていない。翻訳論文(Thesis)は選択である。

バベル翻訳大学院の提供する科目は細分化された実務訓練コースが主力である。たとえば文芸翻訳専攻であれば、基本的な翻訳英文法のほかにロマンス、ミステリー、ノンフィクションなどの科目が選択科目として、提供されるし、リーガル専攻であれば、契約書翻訳、訴訟文書翻訳、会社議事録翻訳など法律翻訳が細分化した科目で提供される。したがって、学生は数多くの科目の中からより専門化した科目を選択できる、加えてバベル翻訳大学院の選択科目の中には IT テクノロジーを利用する科目や翻訳経営に関する科目が多く、翻訳者が実際に利用できるような科目が多くある。これはバベル翻訳大学院がインターネット大学院であることからこのような翻訳者のテクニックに力を入れているためである。結果としてバベル翻訳大学院の提供する科目数はミドルベリー国際大学院モンレー校の 20 科目に比して、45 科目と多い。したがって Faculty の数も多く 37 名に及んでいる。

4. ケント・ステート・ユニバーシティとバベル翻訳大学院との比較

Kent State University はアメリカのオンキャンパスの総合研究大学の大手であるが、同大学の中で Undergraduate School と Graduate School の双方で翻訳を教えている。学士、修士、博士の三つの Degree、

BA in Translation

MA in Translation

PhD in Translation Studies

を出すアメリカの大学機関は Kent State University だけである。Kent State University はオハイオ州にある州立の総合研究大学で College of Arts(文芸教養学部) College of Arts and Science(文理系教養学部)、College of Business Administration(経営学部)など8学部を擁する

が、翻訳の学位は Kent State University Institute for Applied Linguistics(ケント・ステート・ユニバーシティ応用言語学研究所)が与えている。

(1) 学士号(BA in Translation)

Undergraduate School で所定の学部教育に加え、Institute for Applied Linguistics (応用言語学研究所)の指定する翻訳科目を履修した学生に BA in Translation (翻訳学士)を与える。4年間の Undergraduate 期間中の全部の科目を Institute for Applied Linguistics が提供するのではなく、学生達は各学部(College)において、一般教養(General Liberal Education)、言語文化(Language Culture Cluster)及び、特定専門領域(Subject Area Specialty)を学び、これに翻訳(Translation/Business Language:25 単位)を加えて、翻訳学士号(BA in Translation)を得る。各学部で学ぶ専門領域は、ビジネス、会計、法律、国際関係、政治、コンピューター、その他科学技術などで、学年は各学部の学士号とダブルメジャーあるいはデュアルデグリーをとることが推奨されている。翻訳学位志向の学生にアンダーグラデュエートの期間中にこのような特定の領域(Subject Area Specialty)の科目を取らせようとする理由は、「現代の翻訳者は一般的な翻訳ではなく、特定の分野の翻訳で訓練されるべきだ」という考え方でそのようなカリキュラムに設計されていると説明されている。

BA in Translation を取得した学生数は公表されていないが、MA in Translation へ進学する学生数から推定してそう多くはなく数十名の桁であろうと推定される。

バベル翻訳大学院は、Undergraduate School を有していないが、修士コースの入学試験において、4年制大学卒以上を要件としており、入学学生の殆どが、特定の専門の学部を出た後に有職者としての職業経験を経ている。

(2) 修士号(MA in Translation)

Kent State University Institute for Applied Linguistics は、2 年制の Graduate School of Translation であり、Master of Arts(MA) in Translation(翻訳修士)の学位を提供している。その内容は次の通りである。

(a) 言語、学生、及び教授陣

日本語、仏語、独語、露語、アラビア語、西語、の 6 言語が翻訳修士号の対象言語として指定されている。MA in Translation の学生数は少なく、毎年 20 名から 30 名が入学し、卒業する。

教授陣(Faculty)は日本語 1 名、フランス語 5 名、ドイツ語 4 名、ロシア語 3 名、スペイン語 3 名、アラビア語 2 名、合計 18 名である。

バベル翻訳大学院の専攻言語は英日・日英のみであり、他の言語を有していない。

(b)カリキュラム及び科目

Kent State University の MA in Translation のカリキュラムは、①各言語別の翻訳訓練、②翻訳実務、③翻訳学・理論の三つのジャンルにそれぞれの科目が配置されている。

各言語別の翻訳訓練は、一般文書翻訳実務(Non-specialized translation practice)、文芸翻訳(Literary and Cultural Translation)、商事・法務・外交翻訳(Commercial, Legal and Diplomatic Translation)、科学・技術・医学翻訳(Scientific, Technical, and Medical Translation)、時事問題翻訳(Variable Topic)、ケーススタディ(Case Study Translation Thesis)の 6 科目が必修科目として提供されている。

翻訳実務の科目としては、翻訳のためのターミノロジー及びコンピューターの利用(Terminology and Computer Application for Translation)、ローカリゼーション(Software Localization)、翻訳プロジェクトマネジメント(Project Management in Language Industry)、翻訳ドキュメントのコンピューター処理(Documents in Multilingual Context-Translation Tools)など 6 科目が必修または選択必修として提供されている。

翻訳学・翻訳理論については翻訳セオリー(Theory of Translation)、応用翻訳研究(Applied Translation Research)、記号論(Semiotics)などの科目がある。この翻訳学・翻訳理論の部分は更に博士課程(PhD in Translation)で更に多彩となるが、これは Kent State

University が翻訳教育を応用言語学研究所 (Institute for Applied Linguistics) から提供していることによる Kent State University の翻訳教育の特徴である。学生は卒業のために修士論文を課される。

(c) バベル翻訳大学院と Kent State University との比較

Kent State University が日、仏、独、露、西、アラビアの 6ヶ国言語を提供しているのに対し、バベル翻訳大学院は、英語と日本語の科目に集中しておりたくさんの言語を扱っていない。しかしながら、英日語間における翻訳訓練科目のバラエティはバベル翻訳大学院の方が圧倒的に勝る。バベル翻訳大学院は全 45 科目を 37 名の教授陣 (5 名のインストラクター含む) が分野別に教えている。たとえば文芸、翻訳メジャーの科目ではロマンス、ミステリー、ドラマ、ノンフィクション等々と細分化されている。金融 IR 翻訳メジャーでは、金融証券翻訳、銀行翻訳、会計翻訳、国際金融翻訳等々が提供されている。特許・技術・医学翻訳専攻では、特許、技術、医学がそれぞれ、英日、日英と分化し且つレベル I, II と分けて教えられている。法律翻訳文やでは、契約書翻訳がレベル III まで分かれて日英、英日で提供され、更に訴訟文書、会議議事録など各種の法律文書の翻訳の科目がある。学生は細分化した大量の文書を翻訳することで十分な訓練を受けることができる。

翻訳事業に関する実務訓練の科目が多いのもバベル翻訳大学院の特徴である。翻訳に付随してシノプシス(アウトライン)ライティング、要約の科目がある。翻訳の生産性を向上するための IT 技術の講座も多く、翻訳ソフト基礎演習 (Using Translation Software)、テキスト処理入門 (Text Processing for Translation)、翻訳支援ソフト活用 (Technology to Improve Translation)、マルチステップ翻訳ワークショップ (Multi-step Translation Workshop)、ホームページ制作 (Building Website) などが用意されている。

バベル翻訳大学院では、翻訳業経営のための科目として翻訳ビジネス起業 (Starting up Translation Business) 翻訳ビジネス経営 (Translation Business Management) 翻訳者の権利保護法 (Practical Legal Knowledge for Translators) フリーランストラנסレーター実務 (Practices for Freelance Translator) などの科目も用意されている。

バベル翻訳大学院では、翻訳学・翻訳理論の科目としては、翻訳英文法 (Translation Grammar) 翻訳論研究 (Translation Theories) 世界翻訳史 (History of Translation in the World)、英語史 (History of English)、異文化コミュニケーション (Different Culture Communication)などの科目がある。

学生は卒業の要件として修士論文 (Master's Thesis) 又は修士論文に匹敵する修了作品プロジェクト (Graduation Project) を課される。

(3) 博士号 (PhD in Translation Studies)

Kent State University Institute for Applied Linguistics が提供する博士号 (PhD in Translation Studies) は特定の履修年限は明示されていないが、MA in Translation 又は MA in Foreign Language を卒業して入学し、4 年以上を要するようである。教授陣は前述の修士課程で記したメンバー (18 名) であり、博士課程の学生は各言語を合計して毎年数名である。(2007 年 4 名、2008 年 3 名、2009 年 5 名、2010 年 4 名、2011 年 8 名、2013 年 7 名、2014 年 4 名)

博士課程で提供される科目は、応用言語学 (Applied Linguistics)、言語産業論 (Language Industry)、翻訳教授法 (Translation Pedagogy)、翻訳コーパス (Corpora in Translation)、翻訳認識論 (Translation and Cognition) など応用言語系の科目 (これは母体が Institute for Applied Linguistics であることによるであろう。)に加えて、翻訳学における時事的な題材を主題としたセミナーが随時提供される。対象言語ごとの教育訓練は博士課程プログラムの中に入っていない。学生は上記の科目履修 (Coursework) を終わった後、博士論文 (Dissertation) に着手する。博士論文のテーマは予め論文アドバイザリーコミッティの審査を受ける。博士課程の大半はこの博士論文の研究と執筆に費やされる。博士号の卒業生の殆どは教授 (他の大学で翻訳論を教える) 志向のようである。

バベル翻訳大学院は博士課程を有していないので、ここでは比較はしない。

(4) Kent State University の外国語学部について

参考までに Kent State University の外国語学部について説明する。これは、翻訳の学士号、修

士号、博士号を提供する応用言語学研究所とは別の組織であり別に教えられている。しかし両者は緊密な関係を有している。

外国語学部

Kent State University College of Arts and Science(文理学部)の中の Department of Modern and Classical Language Studies (近代古典言語研究部門)がケント・ステート大学の外国語学部である。次の言語学科がある。

サインランゲージ(手話)

アラビア語

中国語

古典ラテン語・ギリシャ語

フランス語

ドイツ語

ギリシャ語

イタリア語

日本語

ロシア語

スペイン語

スワヒリ語

これらの学科を終了した学生は Bachelor of Arts and Sciences の学位を得ることができる。これらの学科の教授陣は、翻訳の教授陣とは別である。たとえばこの外国語学科の日本語の Faculty は7名(教授1名、インストラクター6名)となっている。

バベル翻訳大学院は組織内に外国語学部を持っていない。

5. ニューヨーク大学 SCPS(School of Continuing and Professional Studies)とバベル翻訳大

学院との比較

(1) NYUの全体像とSCPS

ニューヨーク大学(New York University: NYU)は、ニューヨーク・マンハッタンのグリニッチビルディングにある私立(市立や州立のNYUと違う点に注意)の大学で、理、工、政、経、社会など 11 の学部とメディカルスクール、ロースクールなど 6 つの大学院を持つ総合大学である。学生数 43000 人、フルタイムファカルティ数 6800 人の大規模大学である。(この点がミドルベリーやケント・ステートと違う。)

NYU の翻訳教育は、NYU のなかの **School of Professional Studies**:という学部組織(略称 SPS)が運営している。

SPS はその中に **Foreign Language, Translation and Interpreting**(外国語・翻訳・通訳)のプログラムを持ち、オンキャンパスとオンラインの双方で教えている。

オンキャンパスで翻訳を教えているのは、仏、独、西、露、伊、葡(ポルトガル)、希(ギリシャ)、阿(アラビア)、中、日、など 25 言語に上る。上記のほかに地域言語カテゴリー分けのコースとして、スカンジナビア圏、中東圏、東アジア圏のコースがある。

翻訳通訳教育のほかに NYU SPS は言語検定事業も行っており、検定言語は 50 カ国を超す。NYU SPS がニューヨークのキャンパス(または遠隔の場合はオンライン)で試験を行い合格者にサーティフィケートを出す。

NYU の **School of Professional Studies** はオンライン教育も行っている。オンライン通信教育で修士号を付与する翻訳教育プログラムを提供している。科目は仏、西、中から英語への翻訳である。

バベル翻訳大学院(オンライン教育)との比較上、NYU SPS のオンライン教育に限って紹介する。

(2) 言語、単位数、付与する学位

NYU SPS がオンライン通信教育で提供しているのは、仏>英、西>英、中>英であり、その逆は提供していない。この点が、バベル翻訳大学院における、日>英および英>日という両方向のプログラムを提供する方法とは異なっている。

NYU SPS の授与する翻訳修士プログラムの卒業単位数は 36 単位である。これはバベル翻訳大学院と同じ。

NYU が付与する学位は、**Master of Science in Translation** であり、この点はバベル翻訳大学院と同じである。

(3) 学生および教授陣

NYU SPS のオンライン教育の学生数は公表されていない。学生の男女比は 27%(男性)73%(女性)となっている。

同校ウェブサイトでは、ファカルティ・メンバーの数は 5 名と記載されている。

バベル翻訳大学院のファカルティ・メンバーの数は 37 名(プロフェッサーとインストラクターを合わせて)である。

(4) カリキュラム及び科目

NYU SPS がオンラインで提供する科目は下記に記載する41科目である。Law や Business のトランスレーション科目が多い。これはニューヨークという土地柄であろう。実学的色彩の強いバベル翻訳大学院と似ている。NYU SPS は言語学的なセオリー科目の多いケント・ステートよりは実学的訓練を重んずる、よりプラグマチックなカリキュラム設計方針を採っているようである。

NYU SPS が提供する科目は 41 科目、バベル翻訳大学院では 45 科目、バベル翻訳大学院が英日日英に集中しての科目であるのに対し、NYU SPS が提供するのは仏、西、中(3 言語)に分散しているので、学生の選択の範囲はバベル翻訳大学院の方が広いと考えられる。

Theory and Practice of Translation
Theory & Practice of Terminology
Contrastive Stylistics: Spanish/English
Contrastive Stylistics: French/English
Introduction to Pragmatics
Discourse Analysis
Cross-Cultural Communication
Technical and Business Writing
Comparative Banking & Accounting Systems
Comparative Legal Systems
Understanding the Discourse of Global Economics
Comparative Corporate Practice
Legal Translation I - Spanish
Legal Translation I - French
Contrastive Stylistics: French/English
Financial Translation I - Spanish
Financial Translation I - French
Introduction to Software & Website Localization
Translation into the "B" Language French
Professional Translation Workshop (Chinese to English)
Translation into the "B" Language - French
Financial Translation II: Spanish
Translation of Accounting Documents: Spanish
Translation of Accounting Documents: French
Translation of Insurance Documents: Spanish
Translation of Insurance Documents: French
Legal Translation II - Spanish
Financial Translation I - French
Financial Translation II - French
Legal Translation I - French
Translation of Banking Documents: French
Translation for the Securities Market: French
Translation of Debt-Related Material: French
Translation of Trial and Court Documents: Written and Sight Translation - French
Translation of Contracts - French

Translation of Contracts - Spanish

Translation of Contracts - French

Legal Translation II - French

Patents Translation: French

Translation of Trial and Court Documents: Written and Sight Translation French

Thesis Project

(以上)

本調査は社団法人日本翻訳協会 翻訳教育調査チームが 2018 年に行ったものである。

(2018 年 7 月 20 日更新)